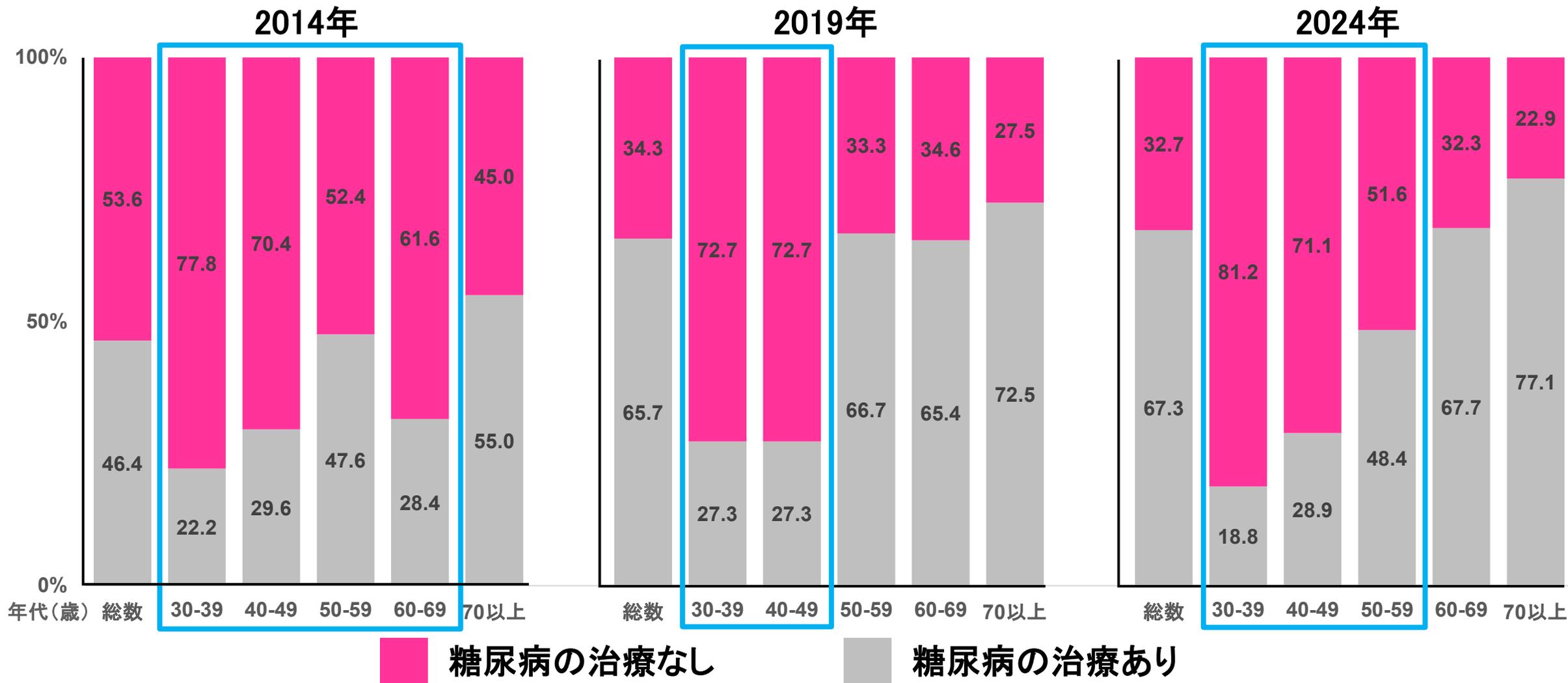
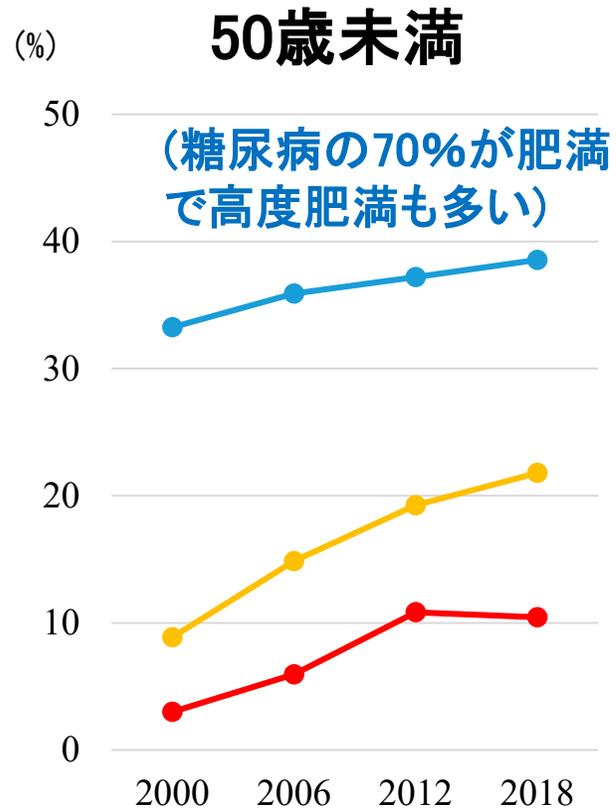


糖尿病(ダイアベティス)の受診率は改善しているが、30・40代では依然として約7割以上が治療を受けていない



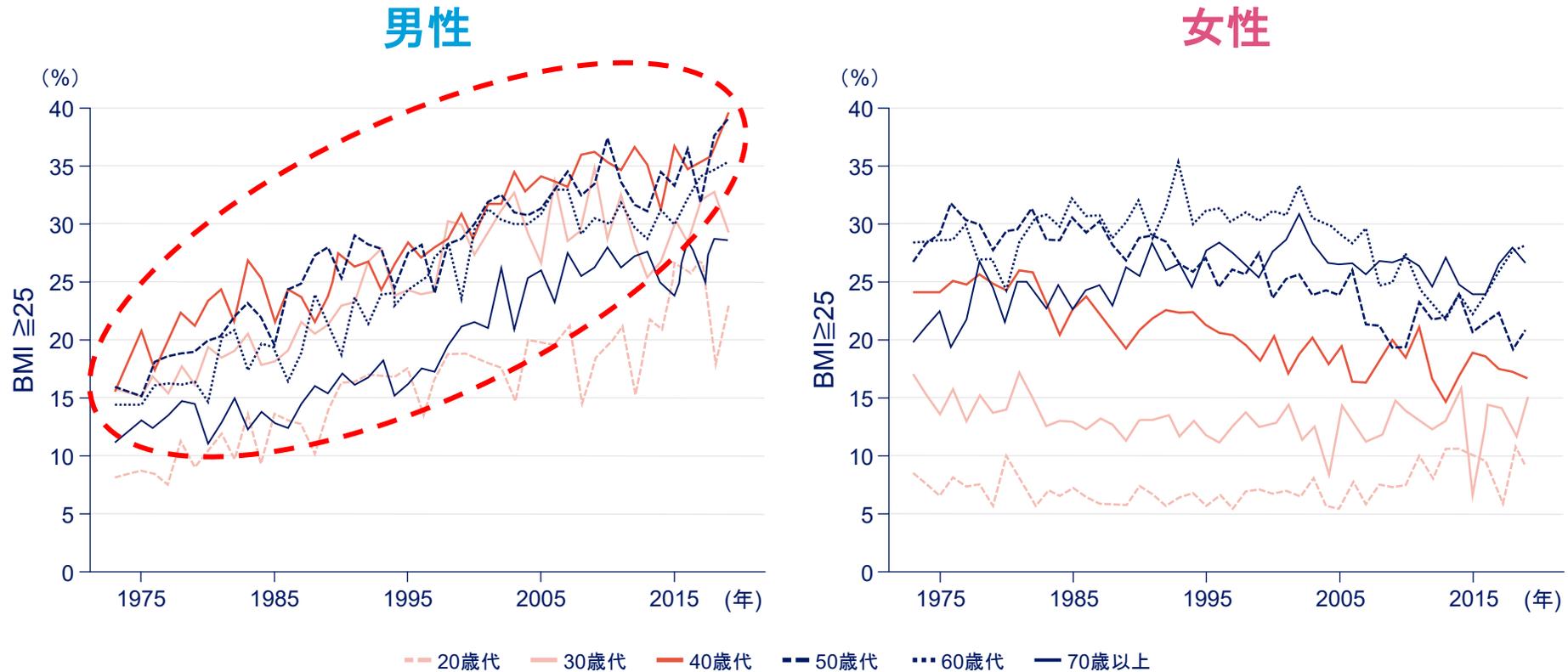
わが国糖尿病における肥満の有病率： 滋賀県医師会糖尿病実態調査

BMI 25-30 30-35 ≥ 35



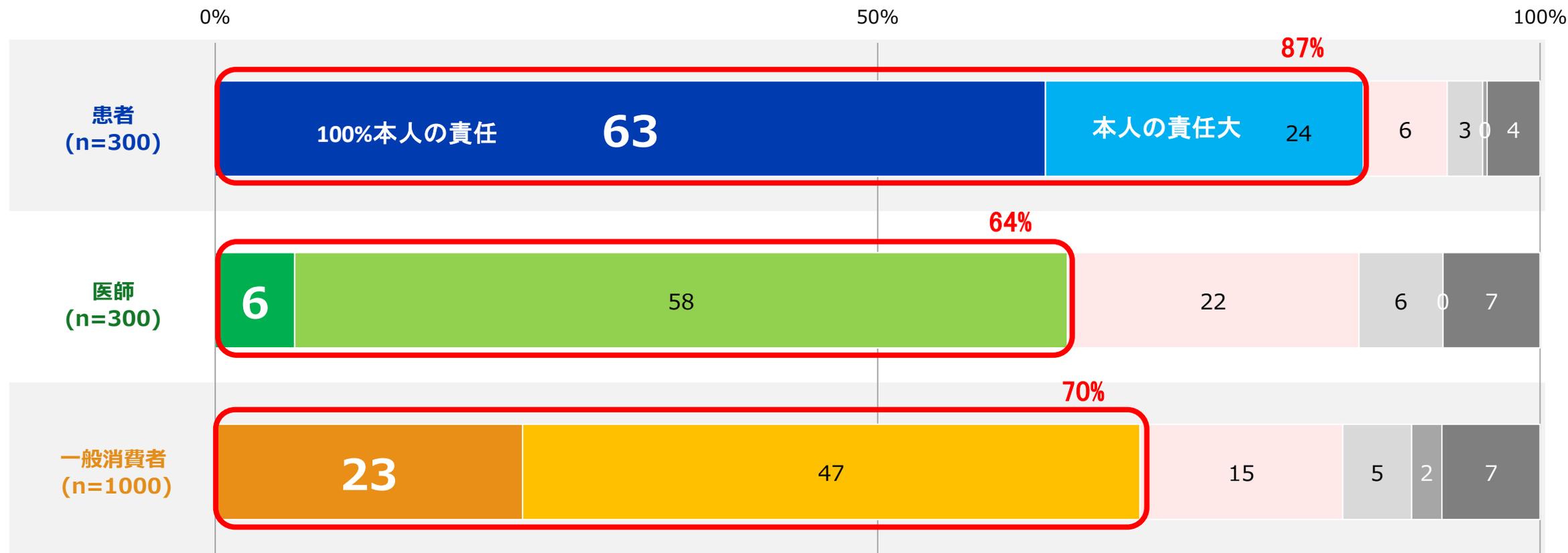
中高年までの糖尿病では肥満対策が喫緊の課題！

日本における肥満者割合 (BMI \geq 25) の推移



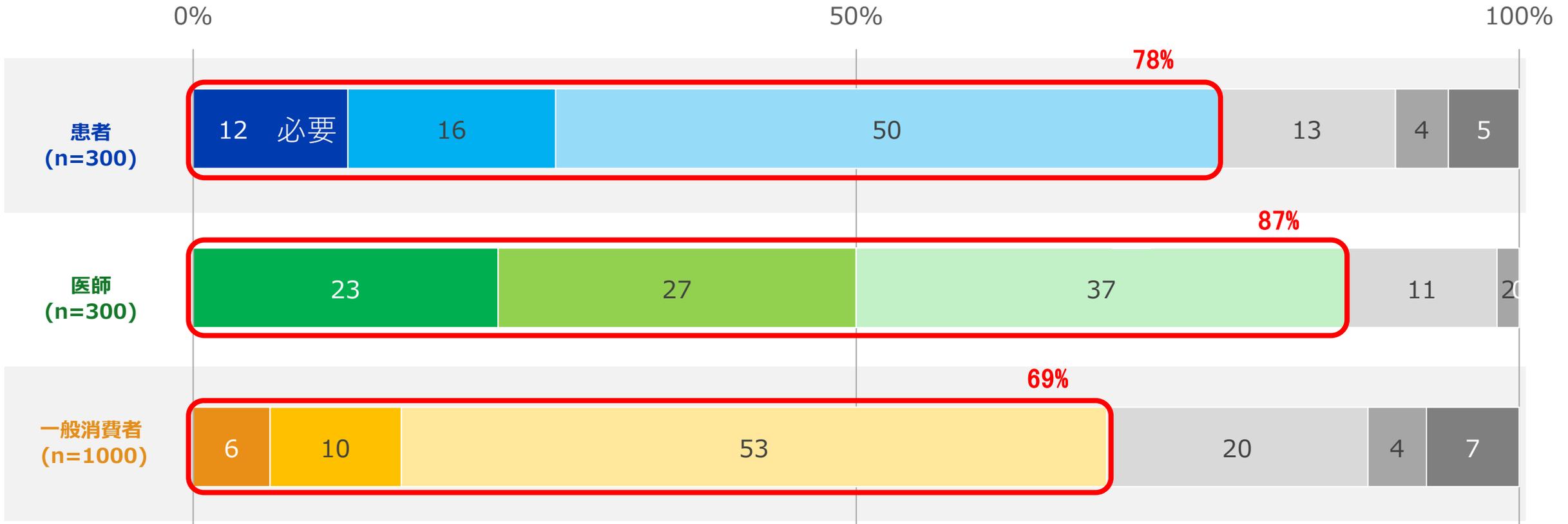
- ✓ 肥満のある人の割合は成人男性で増加しており、特に30～50歳代で顕著！
- ✓ 肥満の解消は糖尿病はじめ慢性疾患の発症を防止する

「肥満」の責任は誰にあるか？



一般消費者の7割、肥満症患者の9割近くが「肥満は自己責任」と考えている
患者の自己責任意識は強く、一般消費者よりもスティグマが大きい

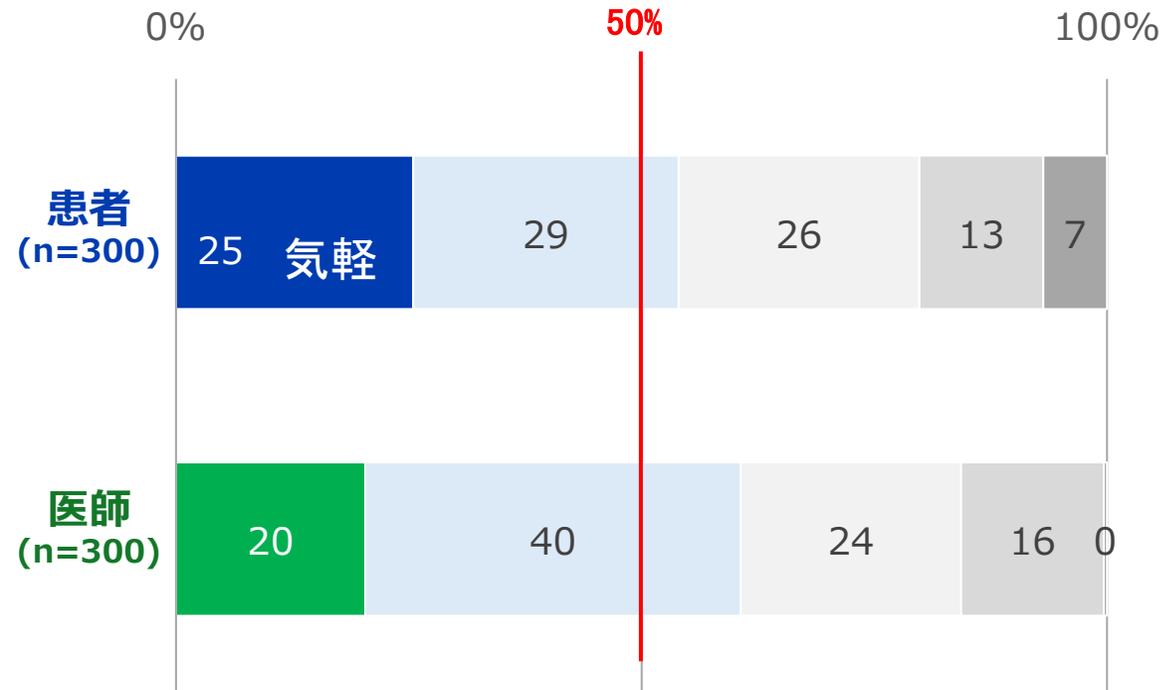
肥満症治療の必要性



- 肥満症は他の病気と同等以上に「治療が必要」と考えている人が7割以上

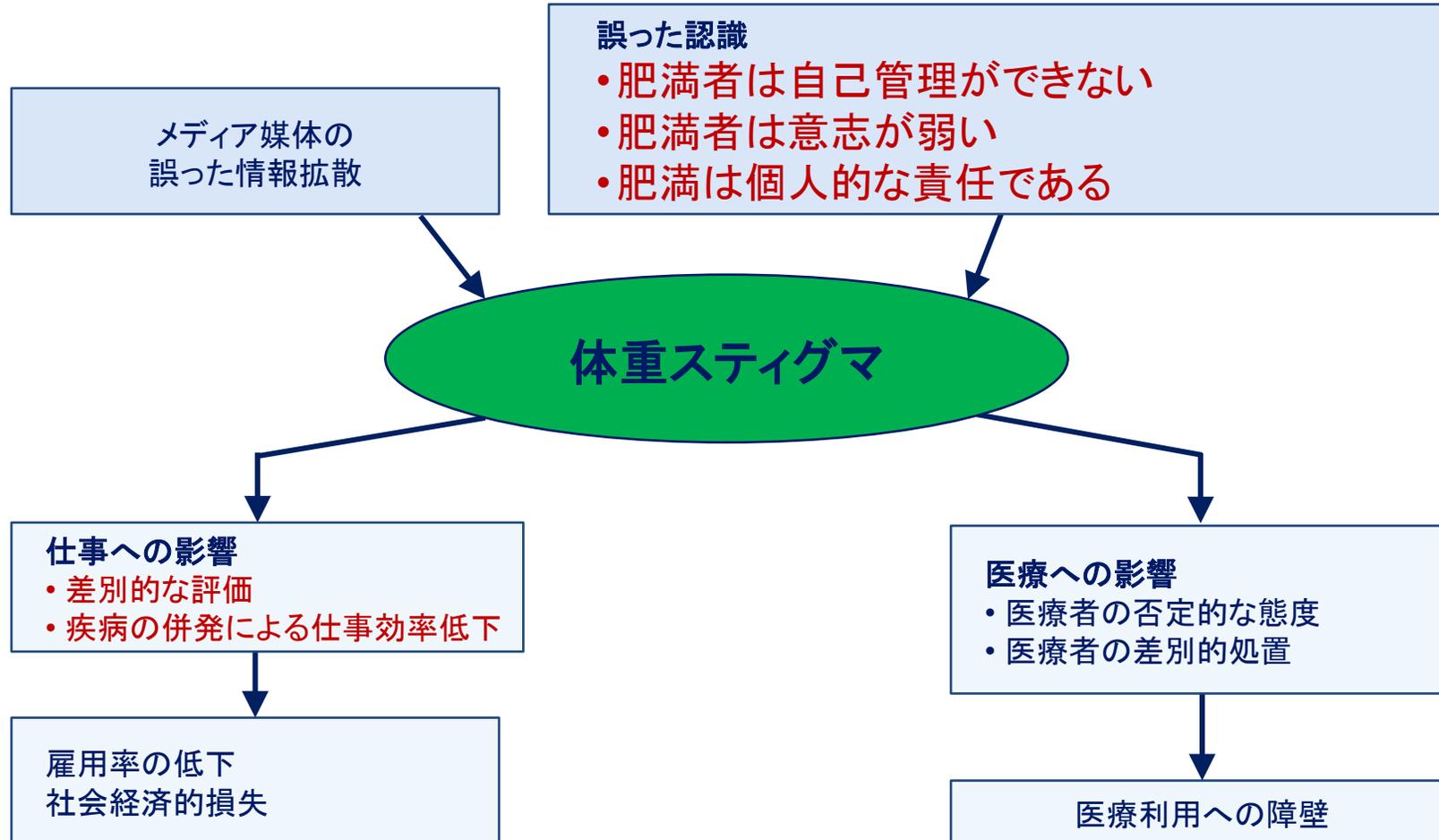
診療で体重について話題にすることについて

体重について医師に(患者に)相談・話題にすることの気軽さ



●肥満症患者も医師も、体重について“話したいが話題にしにくい”現状。

体重スティグマ(偏見)の形成と肥満者への影響



日本における肥満の拡大を見逃すことは 生産年齢人口が低下していく日本経済にとって大きな負担になり得る

肥満は環境的要因の強い社会問題

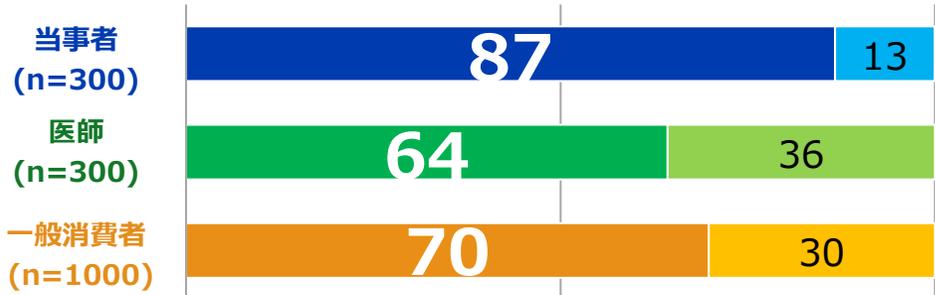
- ✓ BMI の決定要因の約 **70%** が**遺伝的要因**である
- ✓ 肥満の発症には、**遺伝的要因**と**環境的要因**が相互に作用している
- ✓ 環境的要因には**社会経済的要因**も含まれるため、個人の行動のみで制御することが困難

1. Bays H, et al. *Obesity Pillars*. 2022;3:100034. 2. Safaei M, et al. *Comput Biol Med*. 2021;136:e104754.

日本での強いスティグマ（偏見）

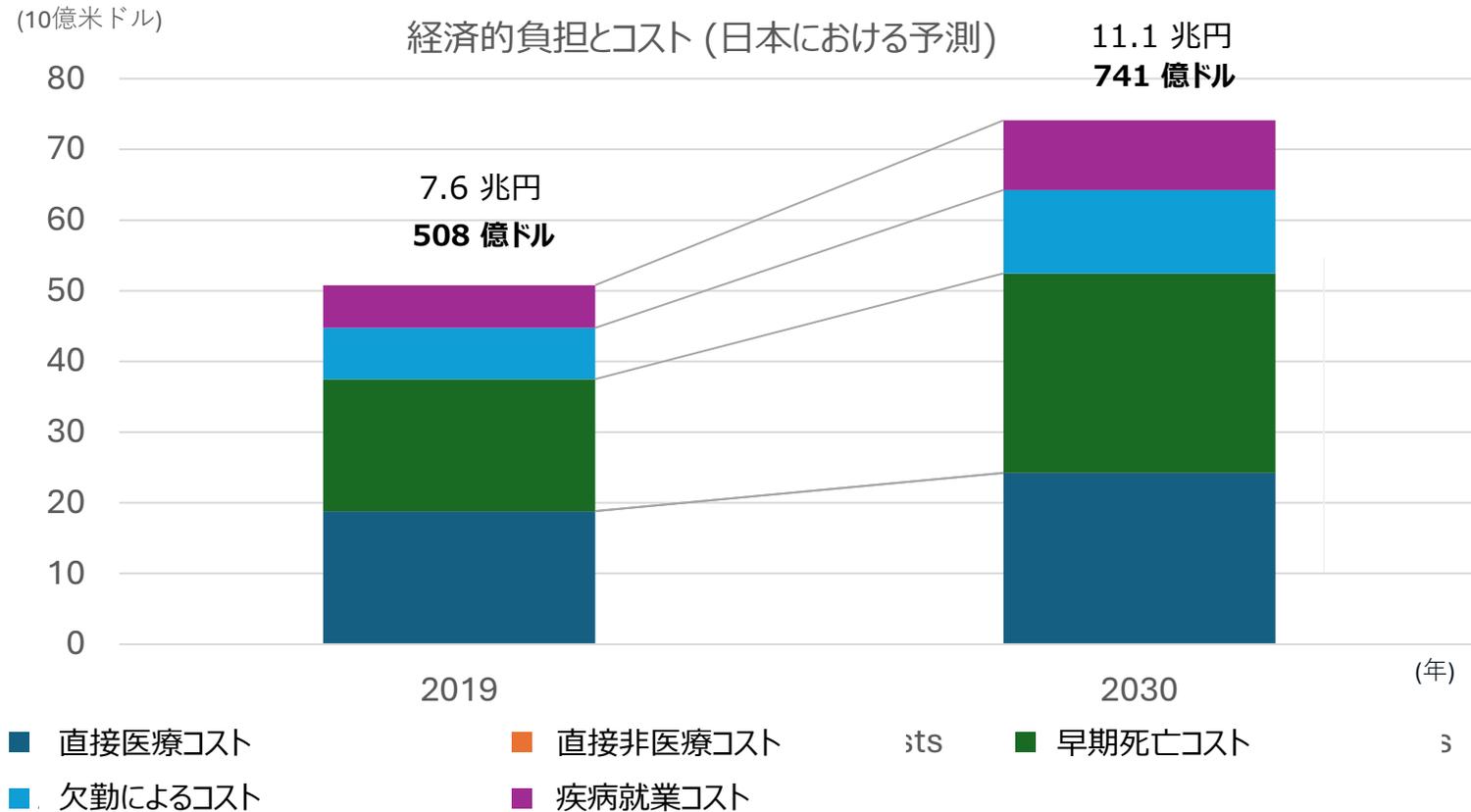
当事者の約 **90%** が肥満を自己責任であると考えている。

0% 50% 100%



JADEC肥満部会、日本イーライリリー株式会社、田辺三菱製薬株式会社
2025年2月27日発表ニュースリリース：肥満症患者、医師、一般生活者への意識調査結果発表

肥満による経済への多大な影響 -欠勤や生産性の低下-



World Obesity Federation, Economic impact of overweight and obesity
https://data.worldobesity.org/country/japan-105/#data_economic-impact

World Obesity Federation, World Obesity Atlas 2025,
https://s3-eu-west-1.amazonaws.com/wof-files/World_Obesity_Atlas_2025.pdf



医学的な観点として、日本人は皮下脂肪よりも内臓脂肪を蓄積しやすく、内臓脂肪が2型糖尿病の発症進展を加速させることはよく知られています。

社会問的な観点として、肥満への誤解や偏見も多く、また、不適切な肥満治療が健康障害につながるケースも増えています。

JADECは、糖尿病の啓発、スティグマ解消に長きにわたり貢献してきました。今回、糖尿病の前段階である肥満に着目し、肥満に介入することにより糖尿病の発症を予防すると共に、肥満の方々がスティグマによって萎縮することなく、自分らしく栄養・体重管理に取り組める社会やコミュニティをつくるための社会啓発活動を展開します。

**JADECはダイアベティス(糖尿病)発症防止のため
肥満と肥満スティグマの解消をはかります！**